

12^火, 13^水, 19^火, 21^水, 22^木

講義 **キリスト者の考え方** 永井 学院長

私たちの行動は、その時の感情と私たち自身の根底にある考え方が大きく影響します。この講義では、過去の様々な体験から、自分が持っている考え方を知り、またそれに向き合い、キリスト者としてどのような考え方が必要かを学びます。

14^木, 15^金, 20^水

伝道実践

近隣の町でのトラクト等の配布や訪問伝道、関係づくりなどを行います。その他、伝道ライブなども行います。



24^日

ゴスペルタウンまつり

ハレルヤ!! 今年もやります!! 前回より、さらにグレードアップしての開催となる予定です!! お楽しみに!!



26^火 ~ 29^金

講義 **成長セミナー** 永井 基呼師

信仰を持ち始めたばかりの方や求道者の方に、キリスト教の基本的な教理などを、専用の絵を用いて分かりやすく教える事が出来るようになるための学びです。



学院長のデスクから

つい先日、拡大宣教学院のある宮城県でも稲刈りのニュースを聞きました。秋の訪れを感じる季節の到来です。

主イエスは弟子たちを遣わされるにあたって、「実りは多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい」(ルカの福音書 10:2) と告げられました。

この日本にも「収穫のための働き手」が多く必要です。ぜひ、そのために学ぶ方々を学院へお送りください。(10月からの後期入学生を募集中です!)

先月に続けてのお願いではありますが、30年目となる施設の老朽化などさまざまな必要を抱えております。さらなるご支援をよろしくお願いいたします。

皆さまの収穫の秋を迎えるのプログラムやイベントの祝福を心よりお祈りいたします!



学院長 永井信義

BOOK あらかると



今回はクリスチャン詩人として多くの人にその作品が愛されている、八木重吉の詩と絵のコラボ作品『八木重吉詩画集』(童話屋)を紹介します。

絵は井上ゆかりによるもので、彼女は「八木重吉の詩が何より好きで、重吉さんの声を聞いては絵を描きつづけてきた」、そして、「重吉さんの美しい詩は、井上ゆかりさんの絵との出会いで一冊の詩画集に実(な)った」(発行者の田中和雄さんの「あとがき」より)とのこと。

詩や絵の好きな人への贈り物にも用いることができる、ぜひ、手に取って見ていただきたい一冊です。

永井信義



Kakudai Mission Institute No.349

Magnify

拡大宣教学院 機関紙 マグニファイ



みことばを伝える

イエス・キリスト福音の群 いわきホームチャペル 牧師 黒田 望 師



1. 積極的に伝える

みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。

(テモテへの手紙第二 4章2節)

このみことばは、私にとってチャレンジです。私はこれまで、みことばを伝えると人が離れていくという経験をしたことがありました。私の伝え方が足りなかったかもしれません。関係づくりも十分でなかったかもしれません。けれども、このみことばに私はいつも励まされるのです。伝え方や関係づくりにも増して、恐れず、積極的に伝えるように私を後押しするからです。私は、このみことばによって心を燃やされます。確かに礼儀や言葉を選ぶこと、そしてタイミングは大切です。ですから気をつけながら、しかし尻込みせず、みことばを伝えていきたいと思えます。今もなお「みことばを伝える」事は緊急性を持っています。一つには、いつミサイルが落ちてくるか分からない時代になってきたからです。揺るがない希望はイエス・キリストの復活にあります。一人でも多くの方に、みことばを伝えたいと思えます。どんな状況であっても、みことばを伝えることは私の務めですし、また教会に委ねられているからです。聖霊に励まされつつ積極的に伝えていきたいです。

2. 地域に伝える

それは、私たちがあなたがたの向こうの地域にまで福音を宣べ伝えるためであって、決して他の人の領域でなされた働きを誇るためではないのです。(コリント人への手紙第二 10章16節)

ある時、イエス様の教えを聞いていた群衆は、イエス様が自分たちから離れないように引き留めようとした。けれどもイエス様は「ほかの町々にも、どうしても神の国の福音を宣べ伝えなければなりません」(ルカ 4:43) と仰ってユダヤの諸会堂を回られました。パウロも同じように、向こうの地域にまで福音を宣べ伝える、と言っています。イエス様もパウロも、いま置かれている地域で福音を伝えました。そして更に次の地域でも

宣べ伝えることを目標に定めていました。イエス様の仰った他の町々やパウロの言った向こうの地域というのは、きっと次のコミュニティを意識しての言葉でしょう。こうした私たちにとっての向こうの地域を見据える視点を持ちながら、神のみことばを伝えていくことは大切なことです。宣べ伝えなければならぬ町々や地域がたくさんあります。そうやってみことばを伝える働きが、地域から地域へ広がっていけるように備えておきたいのです。今の地域だけでなく、新しい地域へと向かって福音が伝えられたのなら、それはとても素晴らしいことですし、教会にとっても大きな励みとなります。いままで教会は色々な地域に伝えられ、築き上げられてきました。これからも、みことばを地域に伝える器として成長させて頂きたいと思えます。

3. 余すことなく伝える

私は、あなたがたのために神からゆだねられた務めに従って、教会に仕える者となりました。神のこばを余すところなく伝えるためです。

(コロサイ人への手紙 1章25節)

パウロは「神のこばを余すことなく伝えることは自分の務めです」と告白しています。つまりパウロは、自分の務めが何であるかをしっかり把握していたのです。人生においてブレない人とは、自分の務めが何であるか知っている人です。パウロは投獄されようと、むち打たれようと、決して務めを手放しませんでした。獄中でもパウロは手紙を通して、神のこばによる励ましを諸教会にあてて書き送ったのです。神の言葉は生きていて、力があります。心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができるのです。神様は、私たちに神の言葉を余すことなく伝えるように願っておられるのです。「イエスは彼らにこう言われた。『全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。』」(マルコ16:15) 私たちがみことばを伝える所に、主も共におられます。恐れず大胆にみことばの力に信頼し、その励ましのみことばを伝える者となろうではありませんか。

CONTENTS

巻頭メッセージ

みことばを伝える

黒田 望 師

特別講義レポート

グローバル・リーダー・インターン [ウィーク6~8]

聖会レポート

リフレッシュ・パワフル聖会

BOOK あらかると

弟子として共に成長し、グローバルな視点で宣教に取り組む
次世代リーダーを日本で養成するプログラム



June 13, 2017 ~ August 4, 2017

グローバル・リーダー・インターン2017

No.347 (7月号) から連載した GLI の講義レポートも今回で最終回です。

Report No.5 GLI Week 6,7 [7/18-21,25-28]

第26期生 掛端 舞子

GLI 第6週目。7月18日は阿見フランス先生による「個人伝道」について。講義の中で一番印象に残っていることは、フランス先生ご自身が、香港から日本に来てまだ日本文化に慣れていない頃の大学生伝道の体験談です。ある大学生に伝道した際、その彼がイエス様を救い主だと信じると告白。しかし、次に会った時に「本当は信じていない。ただ、貴方がかわいそうだった。」と言われたそうです。失敗を通し、同じアジアでも、日本人には伝える順番より、内容が大事と学んだそうです。伝道とは、神様と人との愛の関係に導いて行く。導きで大切なことは、相手に合わせて、どのように良い質問をつくり、相手を引き出せるか、浅い質問から、「何故」を問い、深い感情や思いに導いて行くことです。

19日は永井信義先生による「礼拝」です。使徒の働き2章42~47節から「礼拝」「交わり」「宣教」の3つの関係の重要性と、それらが同時進行であることを再認識致しました。教会に変革が起き、社会に変革が起こる。教会は世に影響を与える希望であることを受け取りました。

20日はチャン先生による「霊性形成」。良心の吟味が大切であること、神様の臨在の中でどんな感情がうづまいているか、どんな事が起こっているかを知る事が重要だと学びました。私たちは、聖霊によって刷新され、より研ぎ澄まされていきます。

続く21日は、意識の糾明(究明)を実践しました。静まり黙想し、安息のなか、聖霊の導きで啓示を受け取る霊的トレーニングを体感しました。

7週目に入り、1日目の25日は、阿見高洋先生による「チームミニストーリー」について。まず GLI の3つの目的「神様との親密な関係」「コミュニティでの弟子化」「福音宣教」を再確認し、一人ずつ受講の感想を発表。その後いくつかのチームに分かれ、チームワーク宣教で大切な事を話し合い、それぞれが発表しました。そこで海外チームと日本人チームの捉え方の違いが明確に現れ、コミュニティによる違いの豊かさのなか、神様の豊かさを



知ることが出来た時間でした。また、8月4日開催の感謝パーティーに向け、チームで GLI を表現する出し物の話し合いになりました。関係性を築き、協働意欲を高め、コミュニケーションしやすい環境を整える「チームビルディング」を体感しました。

26日は、メリー・ジョー先生による「安息日の学び」。現代社会で、静まり沈黙するのはチャレンジな事。私たちは、一日100回以上感情が変化し、また静まる時に本来の自分が見えてくるもの。そのなかで静まり、自分の心の動きや感情に注目することが霊性形成にかかせない事を受け取りました。そして、恵みのサイクルと人間のサイクルの違いを確認。恵みのサイクルは「神にフォーカス」することであり、人間のサイクルは結果重視で「自分にフォーカス」すること。霊的な事で重要なのは、人の方法や人の賢さではなく、神の恵みに信頼して頼り、神の御心に従うことだと思いました。

27日は、田中先生による「宣教」。ただ神の恵みによって救われ、変えられたこと、またインドでの宣教師としての働きについてお証しくいただきました。やはり、まず考え方が大切だと語られた事が心に響いた講義でした。

7週目最後の 28 日は、スー・タカモト先生が代表を務める、石巻の「のぞみプロジェクト」で課外授業が行われました。神様からのビジョンと召しによるプロジェクトに触れ、見学でき感動しました。また、今年スー・カタモト先生ご夫妻が国から表彰されたそうです。これからの働きのために執成しお祈り致します。

先生方お一人ひとりと神様の恵みに感謝します。

Report No.6

GLI Week 8 [8/1-4]

第27期生 福森 雄一

いよいよ最終週の8週目。まず8月1日、2日と2日間に渡り、香港のエルトン・ロー先生による「宣教学」のクラスが行われました。「宣教学」という言葉自体、一般の辞書だけでなく、神学辞典のなかにも、掲載されていないものもあるそうで、その歴史を追いながら、現在も進化している「宣教学」をどのように宣教に活かしていくか、ということ学ぶ、大変興味深い時間となりました。

8月3日は、これまでの8週間の振り返りと決意表明を、一人ずつ発表する時間をもちました。同じ場所で様々な時間を共に過ごしたメンバーそれぞれの発表を聞くだけでも、GLI がどれほど有意義なものであったかがよくわかりました。異文化のクリスチャン同士が、日本語と英語をそれぞれにチャレンジしながら使って、コミュニケーションをとるのは簡単なことではありませんでした。しかし、互いのことを理解していくその過程の中で、相手に対する愛と信頼がどれほど大切なものであるか、またその愛の土台が、神を愛し、その愛を伝えていく福音宣教を動機としたものであるが故に、一人一人の信仰は確かなものとなったように思えました。

そして最終日の8月4日は、3チームに分かれて GLI の3つのミッション、「神との関係の深化」「コミュニティでの弟子化」「福音宣教」を表現するような出し物の発表会がありました。各チームが、限られた時間の中でそれぞれにアイデアを出し合い、時には言葉の壁の故に、理解し合うのが難しい時もありながら、協力し合って作り上げられたそれぞれの出し物は、本当にそれぞれに素晴らしく、笑い涙と感動に溢れたものでした。きっとそれぞれ一人ひとりにとっても、忘れられないものであったでしょう。

本当に貴重な学びをさせて頂いた GLI の8週間は、ただの知識ではなく、実際にこれからの宣教の為に活かしていける宝箱のような時間でした。また、たくさんの仲間が出来た事も大きな財産になりました。

来年の GLI にも本当に期待します。



聖会レポート リフレッシュ・パワフル聖会

第25期生 黒田 広輝

今年もリフレッシュ・パワフル聖会が行われました。少し肌寒いと感じる天候の中でしたが、会場は主の御霊が吹きまくって賛美は力強く、メッセージは心熱く燃やされるものでした。

今年の聖会テーマは「教会を増やす」(使徒 9:31)。メッセンジャーは、千田次郎先生と播義也先生でした。先生方がこれまでされてきた開拓の働き、また聖書が何を私達に教えているのかを共に学び、また考えることができました。

2日目の朝にはメッセージから受け取ったものをシェアする時間が恒例となっていますが、その時間を通して改めて御言葉に向き合い、初対面の方とも交わることが出来、とても良い時間となりました。

この聖会で特に心に残ったことは、播先生が牧師になったばかりの頃に出会った1人の男性の話です。その方は一風変わった人で先生を不安にさせたそうですが、その方は伝道に対して人一倍の熱意を持っていて、その方を通して沢山の方が教会に導かれたという証をしてくれました。先生が「彼が〇〇をするんですよ!」と言って、その方に主がどう働いてくださったのかを証する姿に私は心を打たれました。自分がどれだけ祈ったかではなく、自分の努力ではなく、彼が本当に私を助けてくれた、主は彼を通して働かれたと証する先生の姿に、「良い牧師が良い教会をつくるのではなく、信徒一人一人によって教会は立つ」と語られたその言葉を、まさしく見る事ができました。その事が私には印象深く、私のなりたい牧師像として心に残りました。

来年もまた共に集まり主を賛美出来る事を期待して待ち望みます。

